

松山大学経済学部2021(令和3)年度推薦入試合格者 課題「書評」

氏名：三浦 紗子

受験番号：1670007

対象とした本の番号：5

タイトル：異世界縄文タイムトラベル

※ かならず万年筆かボールペンで「清書」すること(鉛筆・シャーペンは不可)。なお句読点(、。)や「」が行頭にくるときは、行末の字と一緒に書くかマスの右に書くこと。だれにでも癖字はありますが、丁寧に書くことを心がけてください。さらには最後に4枚をホチキスで綴じてください。

異世界縄文タイムトラベルと言う本は、私は
達が普段生活している世界では絶対に経験す
ることのできないようなことを中学生と大學生
が体験する物語である。

私がこの本を読もうと思つたときには、
学生達が縄文時代にタイムスリップするとい
う非現実的な物語に強く惹かれてしまうのである。

現代ではテレビ、パソコン、スマートフォ
ンなどのインターネットがないと成り立たな
い世界となつてゐる。そんな中で暮らしてい
た学生達が急に縄文時代へと放り込まれて、
ターネットはもちろん、電気もガスもない時
代で暮らしていかなければならぬ。私はさう
絶対に不可能だと感じた。だがこの学生達は
知恵を振り絞り、工夫しながら自分達が生きて
行く術を見つけていくのだ。原始人と通り
会い、野生のイノシシなどあそりにも現代か
らかけ離れて出来事に困惑しながらも学生達
が協力し成長するのが、物語を読んでいてよ
く分かつ。もし私がこの学生達のようなら状
況に置かれたら同じように成長できるのか、
冷静に状況を把握できるのかなど、自分と比

べながり読んでばなかな想像しないくらい場面も明々あつて。この本を読まなければまず想像してみようとも鬼かぬいでありますから自分の視野や想像力を広げることもできただと感じた。

500字

私がこの本を読んで特に面白いと感じた所はず、マイストリーリーとして縄文時代で暮らしす工夫をしていろシーンです。例えは川の魚を食料にするために釣りうとしてや、その後魚を食べ尽してしまふと食料がなくなってしまうと考える魚の養殖を考えるシーン。また畑の野菜も今後の事を考へ育てようとするが肥料がないうことはとんじ育てないことに気がつき捨てた場所に因、ついで尿や便を肥料として使えるよう工夫しようと考えるシーン。他には原始人と出会い食料を調達するため狩りをするがての悲惨さを見て現代と縄文時代の命のあり方について鬼に知れられると感じた。現代では想像もつかないことが書かれていたとても興味深いと感じた。

私達は今暮らしていろこの生活がわたり前だ」と感じている。そのため一度失ってみたいたちのあり方に対する気がつくことができないのがもしかれない。

この物語ではこのあたり前が、生活、食料電気、ガス、清潔な水をして健康に生きて

ることとして示されてゐるのではなくいかと私は感じた。また一人では生きていけないことが分かる子に仲間が居ることや、その仲間と協力し助け合うことの大切さを改めて気が付かされた子に感じる。

「一度あることは、二度起こりうる。」とか「、きっと帰れる。」この言葉は大学生が不安で潰れてうな中学生に掛けた言葉だ。この言葉が何か、たゞこの中学生は不安に押し潰されてしまつては子供といふと考へた。私もこの大学生の子にどんな時にも冷静に周りの事をよく見て誰かの心を救える子になりたいと感じた。

私が今まで書いてきた感じしたことや興味深いと感じたことから分かる子にこの本ではたくさんのことを学ぶ事ができること。日本の大昔の自然の状況や、農業についての知識、生きていいくための術、仲間と協力することや命の大切さなど、これらのこととは今後人生を生きて行く上で決して無駄にはならない。そしてこの物語は題名からも分かるように月イムストリーミーの内容は子どもから大人まで想像力を發揮させてくれ、興味を持ちやすいため幅広い世代の人があなれるのではないかと感じた。

この物語では学生達はとよどいながらも繩大時代に順応していく。順応していくことがで

学生達には少しずつ考え方へ変化がで出でてくる。

その変化を私も読んでいるうちに物語の中の学生達と同じような考え方をするようになっていた。このことからこの物語は新しい物の見方を身につけることがでできることになり自分も少し成長できてようになってしまった。

私達は学校で学習してきた事を中心として物事を考えていったが一度視点をかえてみると何の良いものはないか。

私はこの物語を読んで自分がどれだけ悪くされや環境で生活しているのか、そしてそれは私が知らない事が多いたくさんあるのかは知らないと答えきつけてもこの物語を読む。

私の他に今の生活がついてしまう元には、もしもその人や、物の見方が限定され狭い世界しか見えてない人、頭では悪くされないと分かってもこの物語を読めば改めて気がつかされると感じた。

私は今まで家族と一緒に生活してきて何不自由なく過ごしてきて。これからは一人暮らしをするためあと前にも食べていた二飯を、あと前のおとうさん干してくれた洗濯物も全くこれがなければ自分自身ではなければならない。子供で現代から繩文時代に放り込まれてこの物語の学生達のようだ。一人暮らしを始めた前はこの物語を読めて本当に下がった。